

SPring-8 セベラルバンチ運転モード「Hモード」について

公益財団法人高輝度光科学研究センター
利用推進部

2016年2月号に掲載の記事の通り、2016A期より、SPring-8のセベラルバンチ運転モードの1つであるHモードの構造を新Hモードへ変更しましたが、加速器運転の都合により2017B期からは旧Hモードでの運転が続いておりました。2021A期からは再び新Hモードでの運転を再開いたします。

モード名	Bunch Mode	Bunch Interval	Total Current	Single Bunch Current	Beam Injection Interval
旧Hモード	11/29-filling + 1 bunch	1486 nsec	100 mA	5 mA～	40 seconds



新Hモード	<u>406 × 11/29 bunches</u> + 1 bunch	<u>11.8 nsec,</u> 1486 nsec	100 mA	<u>0.6 mA,</u> 5 mA～	<u>30 seconds</u>
-------	---	--------------------------------	--------	-------------------------	-------------------

今回の変更によって、大電流シングルバンチを必要とするユーザーと203バンチ運転(パルス間隔23.6 nsec)よりパルス間隔が短い11.8 nsecのパルス間隔を必要とするユーザーの実験が同時に実施できることとなります。これにより、より多様なユーザーに対応した運転を実現するとともに、利用日設定の自由度が増すというメリットがあります。

詳細は下記URL (SPring-8 セベラルバンチ運転モード対応表) をご覧ください。

http://www.spring8.or.jp/ja/users/operation_status/schedule/bunch_mode

以上